

第20回 学生が選んだベストティーチャー発表！

「もっと学びたい」、「もっと学んでほしい」
—そんな学生と教員の思いを近づけるために

アンケートがつなぐ、学生と先生の学びの循環

2025年度「学修行動と授業評価アンケート」の結果から
評価の高い先生方が「ベストティーチャー」に選出されました！



傅 喆 先生
専門分野：経済学

経済学的アプローチから、環境ガバナンス・環境政策、自然資源と地域経済の関わり、エネルギー転換などを、日本および海外の事例を比較しながら研究しています。近年の円安やエネルギー価格の上昇など、世界経済の変動が私たちの暮らしや地域社会に密接につながっていることが実感されます。イギリスの経済学者・マーシャルが説いた“Cool head but warm heart”を大切に、理論を冷静に学びつつ、現場に寄り添い実践する姿勢の重要性を、学生のみなさんと共に考えていきたいと思っております。



Shawn BANASICK 先生
専門分野：国際関係論

急速に変化する現代において、国際関係を理解することの重要性は、かつてないほど高まっています。しかしながら、国際政治は条約や軍事力といった側面だけで捉えられるものではありません。その背景には、地理や文化、さらには人間の感情といった多様な要素が複雑に絡み合っています。授業の中で、学生一人ひとりがそれぞれの視点や価値観を持ち寄り、世界の出来事について主体的に考え、自らの分析を深めていく姿を見ることは、私にとって大きな喜びです。国際関係の学びを通して、多様な視点を尊重し、自ら考え、そして自信を持って世界と関わっていく力を身につけてほしいと願っています。



Susan E. JONES 先生
専門分野：翻訳教育, 翻訳理論

AIを活用した翻訳アプリやデバイスが市場にあふれる今、人間による翻訳の価値を見直すことがこれまで以上に重要になっています。翻訳は外国語のスキルを磨く優れた手段であるだけでなく、言語や文化に内在する違いを認識し、効果的な翻訳によってその違いを乗り越えるための手段でもあります。本学の翻訳を勉強した卒業生が、充実した語学教育と深い異文化理解力を活かして、それぞれの職場で活躍してくれると確信しています。

木村 昌紀 先生
専門分野：対人関係心理学

現代社会の変化の中で、人と人との関わりが複雑さを増しています。例えば、新たなテクノロジーで、オンラインの外見加工、アプリでの出会い、AIへの相談などこれまでにない関わり方が起きています。ただ、その心理的基盤は古来から現在に至るまで変わりません。目に見えない形のない心を伝えあうコミュニケーションがあり、その繰り返して対人関係が展開します。心理学は、コミュニケーションや対人関係の複雑さを紐解くヒントになると思います。



西嶋 雅樹 先生
専門分野：学校臨床心理学

ネガティブ・ケイパビリティという言葉があります。モヤモヤに耐える力、結論を急がない力と言い換えてもいいでしょう。簡単に正解が出ない事柄が多く、1つの事柄を学べば10のわからない事柄が出てくるのが、大学での学びです。そのわからなさを大事に味わうことで、いつの日か「そうか!」と着想を得ることも珍しくありません。多くの良質な「?」に触れるきっかけを提供できるよう、これからも励みます。



奥野 佐矢子 先生
専門分野：教育学

「教育」というと、教室、先生、時間割といったイメージを思い浮かべるかもしれませんが、それは多様な教育のかたちの一形態にすぎません。本を読む、映画を見る、友人と語らうといったあらゆる局面から、教育は起動します。カントは『教育学』で「人は教育されねばならない唯一の被造物」と語りましたが、そこから200年余り経過した今、私たちはAIの発展などで新たな教育の局面に立っています。「教育」とはこういうもの、という先入観を崩していきながら、新たな教育モデル、人間モデルの可能性につながる見方を、ともに模索していきましょう。



鶴田 英也 先生
専門分野：臨床心理学

「イメージの心理臨床学」では、体験的な学びができるような色々なワークや映画や動画教材を取り入れたり、出席カードに書かれた質問一つ一つに答えるなど、双方向的なやり取りを大切にしています。皆さんの学びの瞬間に立ち会ったり学びを共有できることは私にとってとても嬉しいことで、またそれこそが臨床心理学を学ぶ醍醐味かもしれないと思っています。

